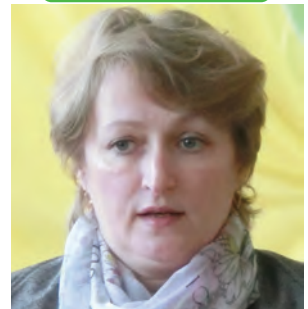


講演会 日本の放射能被害を防ごう

〈ウクライナ〉タチアナ・アンドロシェンコ女史が語る
「極低線量汚染地域・健康被害の真実」

誰も知らない 27 年後のチェルノブイリ

調査報告



1967 年生まれ。看護師、フランス大使館勤務を経て、現在は「食品と暮らしの安全基金」調査コーディネータ

チェルノブイリ原発事故が起きた 1986 年 4 月末から 30 km 圏は避難地域になり、原発から遠ざかる道は、避難の車で大渋滞していました。

その脇の空いた道路を反対方向に向かって車を走らせていたのが、妊娠中のタチアナさんです。

タチアナさんは看護師でしたが、放射能の知識はなく、出産のため、原発から 30 数 km 西にあるノーヴィミール村に里帰りしたのです。

結局、首都キエフに戻って女の子を出産し、村とキエフを行き来していたら、6 年後の 1992 年に、全村民が 180 km 南のコヴァリン村へ強制移住させられました。

福島原発事故で、どのような被害が出るのか、それには、チェルノブイリ原発事故に学ぶしかありません。

食品と暮らしの安全基金では、ウクライナを訪れ、多くの子どもが健康被害で苦しんでいる実態を知りました。

「足が痛い」「頭が痛い」「自律神経失調症」「風邪をひきやすい」「鼻血」「疲れる」「心臓が痛い」……

取材したのは、空間線量が岩手と似た地域です。

その子どもたちの食べものを変えて、元気にする術を見つけました。

私たちの調査に協力してくれているのが、自身も、健康被害に遭っていたタチアナ・アンドロシェンコ女史です。

タチアナ女史の話は、日本でも、これから起きると考えられる健康被害を少なくするために、聞かなくてはならない内容です。

子どもたちのため、自分自身の健康のためにも、一人でも多くの方に「極低線量汚染地域・健康被害の真実」を知っていただきたいと思います。講演会に、ぜひご参加ください。

◇11月18日(月)参加費 無料

13:30 ~ 15:30 講演

15:40 ~ 16:40 質疑

交流会 17:10 ~

会場：盛岡アイーナホール (7F)

盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 ※JR 盛岡駅 徒歩 4 分



<お申込・お問合せ>

☎ 019-605-3345

FAX 019-605-3346

<主催>

11.18 実行委員会

NPO 法人食品と暮らしの安全基金



◇16日(土) さいたま市産業文化センター (お申込・お問合せ ☎048-851-1212)

◇19日(火) 仙台市民活動サポートセンター (お申込・お問合せ ☎048-851-1212)

◇21日(木) 衆議院第一議員会館・多目的ホール (お申込・お問合せ ☎048-851-1212)